

資料・統計

2009年入院がん患者統計

Statistics of Cancer Inpatients in 2009

新潟県立がんセンター新潟病院
情報調査部 病歴室

例年本誌において「悪性疾患入院患者統計」として報告をしていたが、今回からはより平易な表現として「入院がん患者統計」と表題を変更し、各種統計資料に掲載する用語についても同様に配慮した。また、中長期的な登録動向を示す目的で、グラフによる時系列データも今回から掲載した。なお、病歴室では2008年から外来がん患者についても登録処理を行っているが、本統計には含まれていないのでご留意頂きたい。

2009年の入院がん患者の基礎資料

(表1, 図1)

2009年に新規がん登録された患者実数は2,632人、疾患数(延数)は2,724人であり、いずれも前年よ

表1 2009年入(退)院がん患者統計

2009年の入院がん患者の基礎資料

1. 2009年新規がん登録患者数(実数).....2,632
2. 2009年のがん登録疾患数(延数).....2,724
内訳: 本年初登録で単疾患 2,307例, 2,307疾患
本年初登録で複数疾患 81例, 166疾患
既登録で本年初発疾患 244例, 251疾患
3. 2009年の入院がん患者実数.....4,094
(前年までの登録患者も含む)
4. 2009年の入院がん患者延数.....9,886
(前年までの登録患者も含む)
5. 2009年の総入院患者実数.....5,501
6. 2009年の総入院患者延数.....11,787

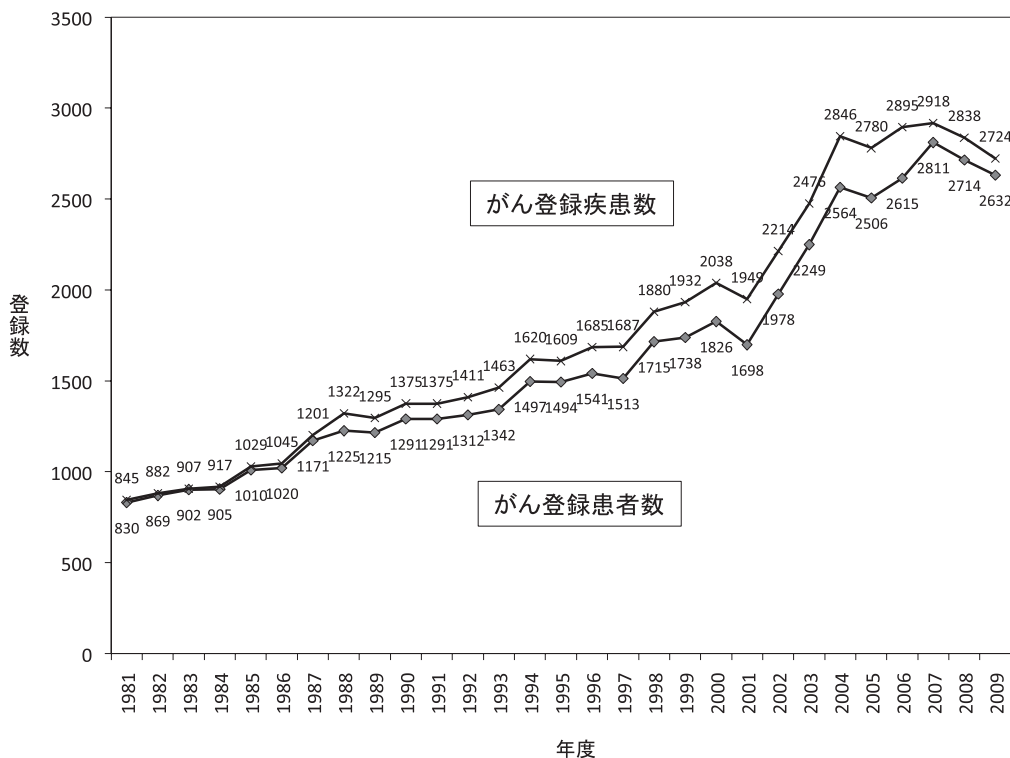


図1 院内がん登録数の年次推移

り100人程度減少している。1981年以降の29年間におけるがん登録数の推移を図1に示す。1980～90年代にかけては緩やかな右肩上がり増加を続け、2000年代に入ってからは急増傾向にあったが、2007年をピークにしてその後は減少基調にある。様々な要因が挙げられるが、地域がん診療連携拠点病院の整備など、がん医療の均てん化を目的とした国の医療政策も影響しているものと思われる。

部位別がん登録数の推移 (表2, 図2)

部位別にみた新規がん登録数の上位5がん腫の順位は前年と変わらず、①肺がん (420, 前年比-28), ②胃がん (386, 前年比-42), ③乳がん (311, 前年比-7), ④前立腺がん (194, 前年比+7), ⑤結腸がん (156, 前年比-29) の順であった。これら上位5がん腫の1993年以降の年次推移を図2に示す。肺がんを除くと2007年をピークにして減少傾向にあることが分かる。

表2 部位別がん登録数の推移 (実数)

部位等 (ICD10)	2007年					2008年					2009年				
	実入院患者数	男	女	延入院患者数	登録新規がん	実入院患者数	男	女	延入院患者数	登録新規がん	実入院患者数	男	女	延入院患者数	登録新規がん
口唇, 口腔および咽頭の悪性新生物 (C00~C14)	56	43	13	76	42	63	45	18	94	55	62	46	16	104	37
食道の悪性新生物 (C15)	183	162	21	423	113	188	161	27	452	120	187	161	26	454	129
胃の悪性新生物 (C16)	579	384	195	843	488	526	354	172	803	428	470	322	148	803	386
小腸の悪性新生物 (C17)	15	11	4	28	10	8	6	2	13	7	12	7	5	18	4
結腸の悪性新生物 (C18)	243	141	102	481	188	240	138	102	478	185	228	126	102	362	156
直腸, 直腸S状結腸移行部および肛門の悪性新生物 (C19~C21)	149	98	51	272	113	131	88	43	273	98	143	102	41	243	103
肝および肝内胆管の悪性新生物 (C22)	75	58	17	130	37	91	64	27	177	63	73	52	21	154	39
胆嚢および肝外胆管の悪性新生物 (C23,C24)	38	23	15	107	31	51	35	16	95	42	52	36	16	105	34
膵の悪性新生物 (C25)	76	50	26	127	53	75	44	31	129	53	86	51	35	161	61
その他消化器および腹膜の悪性新生物 (C26, C48, C45.1)	7	4	3	14	1	9	4	5	13	3	7	3	4	31	2
喉頭の悪性新生物 (C32)	36	33	3	45	25	40	37	3	51	25	45	42	3	75	27
気管, 気管支および肺の悪性新生物 (C33, C34)	626	432	194	1227	406	654	445	209	1303	448	673	475	198	1426	420
その他呼吸系および胸腔内臓器の悪性新生物 (C30,C31,C37~C39,C45.0,C45.2)	18	9	9	33	17	26	15	11	51	17	24	14	10	55	13
骨および関節軟骨の悪性新生物 (C40,C41)	17	9	8	25	12	8	6	2	11	6	16	13	3	49	10
皮膚の悪性新生物 (C43,C44,C46)	77	40	37	90	68	82	35	47	88	73	81	40	41	102	70
乳房の悪性新生物 (C50)	538	1	537	2374	336	513	-	513	2182	318	511	1	510	2443	311
結合組織およびその他の軟部組織の悪性新生物 (C47,C49)	33	20	13	72	19	36	19	17	64	21	34	18	16	90	19
子宮頸の悪性新生物 (C53)	95	-	95	288	54	97	-	97	244	57	91	-	91	226	62
その他子宮の悪性新生物 (C54,C55)	93	-	93	278	62	72	-	72	195	49	77	-	77	263	50
その他女性生殖器の悪性新生物 (C51,C52,C56~C58)	94	-	94	387	47	115	-	115	461	64	109	-	109	387	53
前立腺の悪性新生物 (C61)	268	268	-	314	236	238	238	-	332	187	243	243	-	442	194
膀胱の悪性新生物 (C67)	184	156	28	292	112	190	149	41	302	96	201	147	54	322	104
腎および腎盂の悪性新生物 (C64,C65)	92	67	25	156	66	105	76	29	173	69	99	69	30	163	63
その他の泌尿生殖器の悪性新生物 (C60,C62,C63,C66,C68)	54	43	11	105	36	43	35	8	71	24	55	46	9	94	45
脳の悪性新生物 (C71)	9	5	4	12	9	5	1	4	6	5	6	4	2	8	5
その他および部位不明の悪性新生物 (C69,C70,C72~C80)	138	53	85	224	90	118	54	64	226	81	110	34	76	224	64
再掲 [甲状腺 (C73)]	88	24	64	101	56	78	29	49	95	52	76	18	58	88	50
白血病 (C91~C95)	105	63	42	357	49	103	67	36	317	52	99	69	30	282	56
その他のリンパ組織および造血組織の悪性新生物 (C81~C85,C88,C90,C96)	192	104	88	637	112	198	106	92	709	105	203	124	79	700	113
上皮内癌 (D00~D09)	86	3	83	89	86	90	3	87	92	87	97	5	92	100	94
計	4,176	2,280	1,896	9,506	2,918	4,115	2,225	1,890	9405	2,838	4,094	2,250	1,844	9,886	2,724

※入院患者実数、入院患者延数：前年までに登録された患者も含む

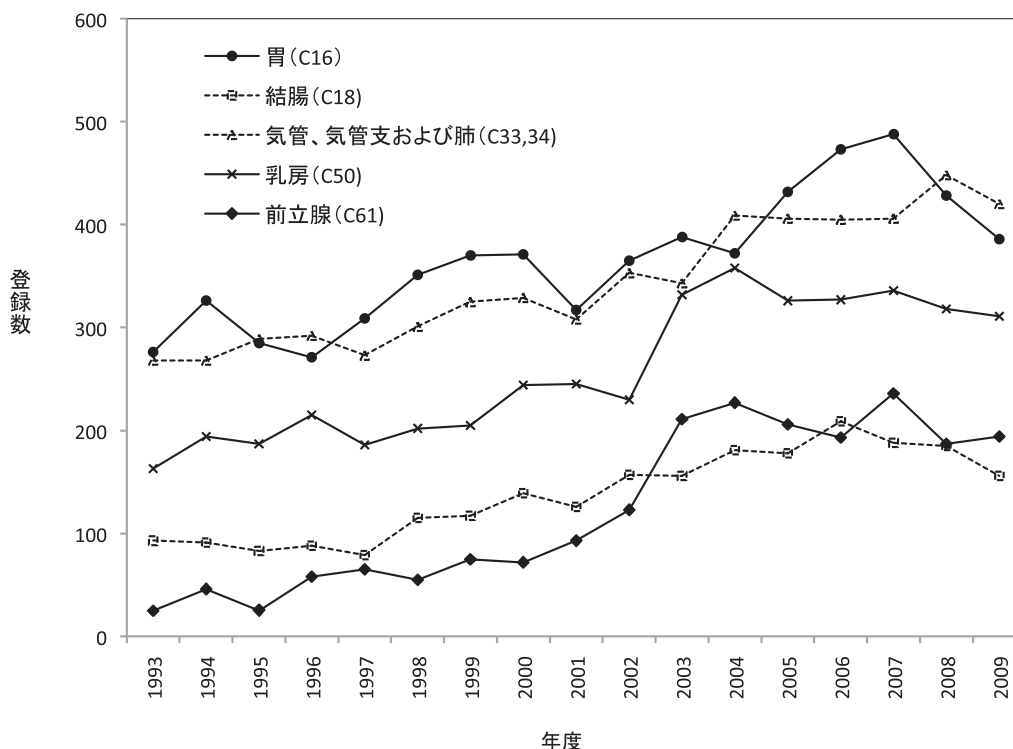


図2 がん登録数の年次推移 (上位5がん)

全入院患者に占めるがん患者数

(表3, 表4, 図3, 表5)

2009年に入院診療を行ったがん患者実数は4,094人(前年比-21)と減少したが、延数は9,886人(前年比+481)でむしろ大幅に増加した。化学療法目的の反復入院が多かったためと思われる。総入院患者数に占めるがん患者数の割合は、実数ベースで69.2%、延数ベースで83.9%と前年と大きな変動はなかった。図3に過去21年間の推移を示す。入院

患者実数での増加に比べて延数の増加が著しいのは、短期入院による化学療法の導入を反映している。1989年には総入院に占めるがん患者の割合は実数ベースで39.1%と低く、延数でも46.9%と半分以下であった。表5にみるように診療科によってかなりの温度差はあるものの、当院全体としてはがん診療への特化傾向が強くなっていることが分かる。

病類別在院日数 (表6)

がん(新生物)患者の平均在院日数は13.7日と、

表3 入院がん患者実数の年次推移 (実数および割合)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
入院がん患者実数	3,561	3,923	3,918	4,081	4,176	4,115	4,094
%	62.3	66.3	66.5	68.3	68.5	69.2	69.2
総入院患者実数	5,716	5,917	5,894	5,975	6,098	5,948	5,914

表4 入院がん患者延数の年次推移 (延数および割合)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
入院がん患者実数	8,293	9,445	9,124	9,417	9,506	9,405	9,886
%	78.3	81.6	81.3	82.5	82.6	83.1	83.9
総入院患者実数	10,594	11,581	11,217	11,413	11,515	11,314	11,787

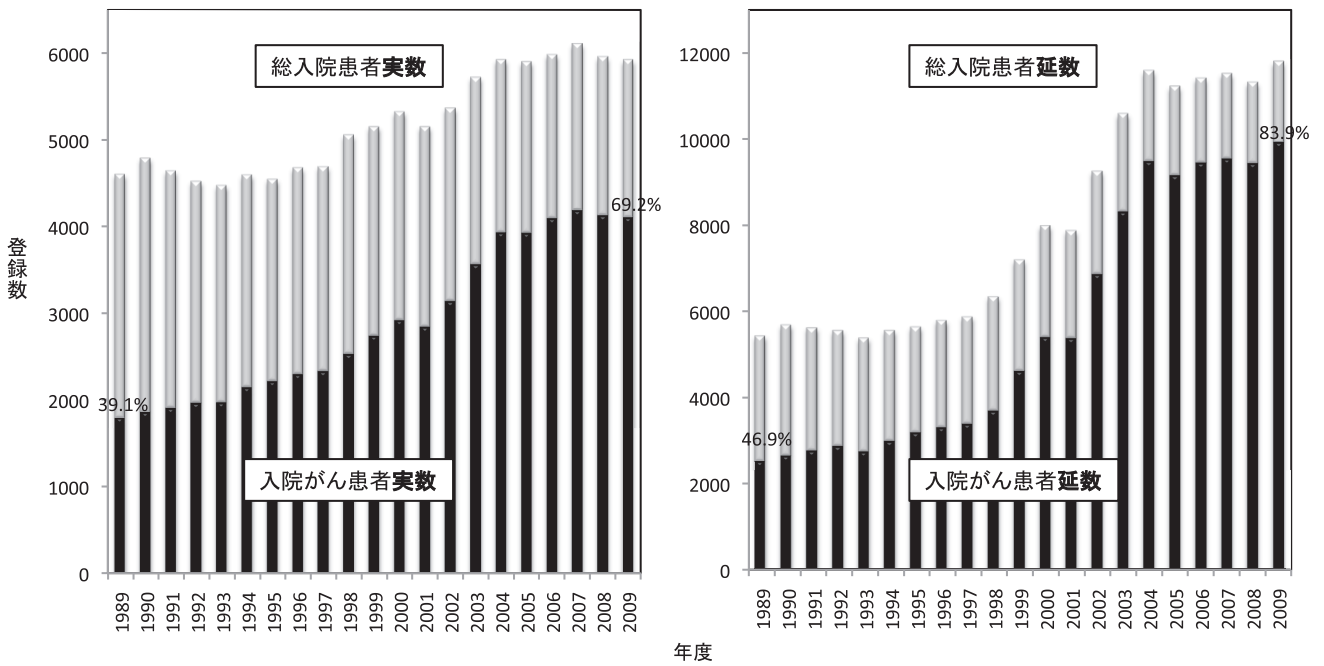


図3 入院患者に占めるがん患者数の年次推移

表5 診療科別がん患者割合（延べ数，重複あり，死亡・剖検は実数）

診療科	がん患者数	（%）	入院患者数	死亡数		剖検数	
				が	ん	が	ん
内科	2,592	(82.7)	3,133	225	255	7	9
神経内科	0	(0.0)	17				
小児科	227	(88.3)	257	3	3	2	2
耳鼻咽喉科	240	(81.9)	293	5	5		
外科	3,790	(93.9)	4,038	113	115		
呼吸器外科	434	(88.4)	491	12	13	1	1
整形外科	119	(34.2)	348	4	4		
心臓血管外科	—	(—)					
脳神経外科	134	(76.6)	175	16	18		
麻酔科	0	(—)					
眼科	0	(0.0)	85				
皮膚科	117	(85.4)	137	1	1		
泌尿器科	966	(76.8)	1,257	37	38	2	2
婦人科	993	(78.1)	1,271	17	17		
放射線科	274	(96.1)	285	4	4		
合計	9,886	(83.9)	11,787	437	473	12	14

表6 2009年病類別 (大分類) 在院日数別患者数

疾病大分類	在院日数	計	1~7日	~14日	~30日	~90日	~180日	~181日 以上	平均在院 日数
合計		11,787	5,565	2,776	2,286	1,072	79	9	13.5 (158,973)
I 感染症および寄生虫症		44	14	15	13	2	0	0	12.9 (567)
II 新生物		10,242	4,767	2,375	2,075	941	75	9	13.7 (140,589)
III 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害		33	14	7	5	7	0	0	18.8 (621)
IV 内分泌, 栄養および代謝疾 患		28	9	8	7	4	0	0	14.2 (397)
V 精神および行動の障害		3	2	0	1	0	0	0	9.7 (29)
VI 神経系の疾患		17	5	5	2	5	0	0	21.6 (367)
VII 眼および付属器の疾患		85	39	46	0	0	0	0	6.7 (566)
VIII 耳および乳様突起の疾患		6	5	1	0	0	0	0	5.7 (34)
IX 循環器系の疾患		216	130	47	31	8	0	0	9.6 (2,074)
X 呼吸器系の疾患		164	57	52	38	16	1	0	14.9 (2,448)
X I 消化器系の疾患		292	102	113	50	26	1	0	14.2 (4,140)
X II 皮膚および皮下組織の疾 患		20	3	6	10	1	0	0	14.7 (293)
X III 筋骨格系および結合組織 の疾患		70	2	15	21	31	1	0	30.8 (2,159)
X IV 尿路性器系の疾患		421	348	64	6	3	0	0	4.5 (1,892)
X V 妊娠, 分娩および 産じょく<褥>		3	3	0	0	0	0	0	4.7 (14)
X VI 周産期に発生した病態		0	0	0	0	0	0	0	0.0 (0)
X VII 先天奇形, 変形および 染色体異常		7	4	2	1	0	0	0	8.3 (58)
X VIII 症状, 徴候および異常臨床所見・異 常検査所見で他に分類されないもの		38	21	9	7	1	0	0	9.7 (370)
X IX 損傷, 中毒およびその 他の外因の影響		76	18	11	19	27	1	0	29.6 (2,253)
X X 傷病および死亡の外因		1	1	0	0	0	0	0	0.0 (2)
XXI 健康状態に影響をおよぼす要 因および保健サービスの利用		21	21	0	0	0	0	0	4.8 (100)
XXI 特殊目的用コード		0	0	0	0	0	0	0	0.0 (0)

()延日数

良性平均在院日数 12.0 (総日数 22,744)

退院患者の入院延日数

悪性平均在院日数 13.8 (総日数 136,229)

平均在院日数 = _____

退院患者延数

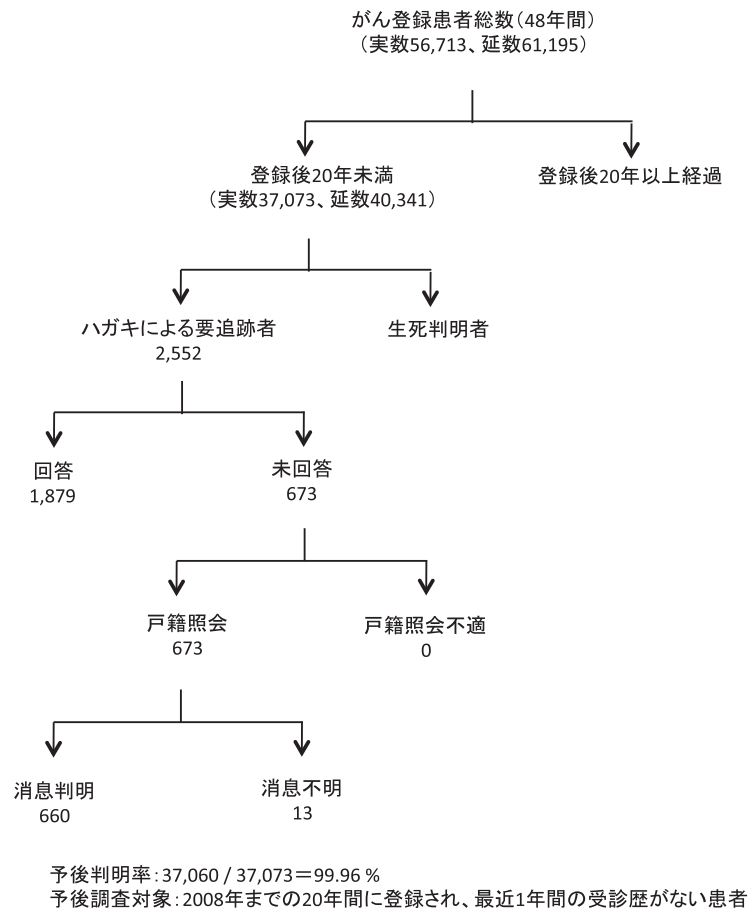


図4 2010年の予後調査結果

前年の14.5日よりも短縮した。当院は全国のがんセンター群の中でも平均在院日数が非常に短いのが特徴であるが、DPCの導入に伴ってさらに短縮傾向にある。

予後調査結果 (図4)

2008年までの48年間に登録された56,713名のがん患者の内、登録後20年未満の患者は37,073名であった。その内すでに病歴室もしくは新潟県がん登録で死亡が確認されている患者を除き、1年以上来院歴

がない2,552名に対して郵送による直接照会を行った。回答数は1,879通(73.6%)で、未回答673名については法務局の許可を得て本籍地の市町村へ戸籍照会をかけたが、13名が照会不能であった。予後判明率は $37,060 / 37,073 = 99.96\%$ であった。生存率データについては当院ホームページで公開している(<http://www.niigata-cc.jp/contents/disease/sippeitoukei.html>)。

(文責 竹之内辰也)